

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくりまします。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくりまします。
- 3 学ぶことを大切に、文化の薫る美しいまちをつくりまします。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

としあか

身障サービスを支える
指導者研修

「図書館だより」の4ページに「ボランティア製作あたらしい本」という見出しがあるのをご存知ですか。

図書館では、体の不自由な人々と視力障害者のためにボランティアの方々へ声の図書（朗読テープ）、点字図書を製作してもらい障害者に貸出してあります。

実は、この製作には、三つの問題があります。一つは著作権の問題があります。一冊の本ごとに著者から許可をいただかねばなりません。

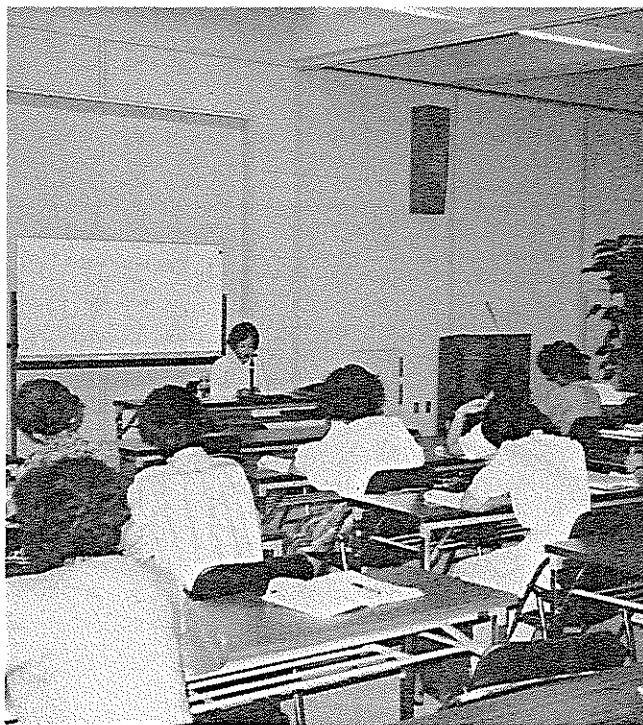
二つ目は、技術上の問題です。朗読では、録音機の問題をいさぐずしなければなりません。視力障害者は、どんな小さな雑音も見逃しませんし、全神経を集中しているのです。雑音が暗眼者の想像以上に気になるからです。また、アクセント、発声、声の高低、ききやすく、聴いていて疲れないようにしなければなりません。

さらに図表など目にとらえるものの説明をわかりやすくするにはどうしたらよいかなど、容易では

ありません。

点字では、六つの点からなる文字、記号、アルファベットなどを憶え、即座にきれいに打てなければなりません。また、文章を打つものにも、分かれ書きなどの約束があります。

三番目は、意思力の問題があります。家庭や職場をもつボランティアの方々には、周囲の人の協力は勿論、自分自身と闘いながら奉仕



△ボランティア指導者研修

してくれています。

暑い汗が流れています

59年度は、99名のボランティアの方が、過去3年間の技術、知識のみぞを埋め、新たな決意を確認しております。受講者はこの講座終了後は、指導者ともなりうる力を蓄えるでしょう。そのために今貴い汗を流しているのです。

とくに夜間研修で講師の都合が

つかない場合は、視聴覚ライブラリーの協力によりビデオで昼間の研修を再現しております。ビデオによる学習もなかなか好評のようです。

また研修に出席したほか、月20冊ぐらいの声の図書、点字図書が製作されております。

みんなの力が集まって

この研修は、60年3月まで30回行う予定です。

この研修は、国立国会図書館、浜松市立図書館、東京都福祉局、日本点字図書館、国立特殊教育研究所、栃木県立盲学校、栃木県身障福祉課のご教示、ご協力により実施できたものです。

新しい出発を

人間として足りない部分を助け合おうという全国の仲間と知り合いたい、みんなも苦労していることを知りました。

また受講生からは、障害者のために、何かもつとしてみたいという声が、中間アンケートから聞えてきました。

今後視力障害者、ボランティアのみなさんと話し合い、緊密な連携のもと新しく出発したいと図書館は考えております。

猛勉強の夏 —— 始末記

今年の夏は暑かったですね。20日以上も熱帯夜が続き、日中気温は、うなぎ昇りでした。図書館は、冷房が入っていることもあって、多くの人でにぎわいました。

とくに閲覧室は毎日が満席でした。開館と同時にもうすわれなくなり、すわれない人が、ロビーにあふれました。

夏休みは、丸1日図書館で学習しようとする人が多いので、途中で席が空くのは、数席です。

にもかかわらずロビーで大切な時間を過ごす人を多くみかけます。図書館員は、家に帰って学習したと勧めますが、ほとんどの人が1日むだに過ごしてしまったようです。

忘れないで他の人のこと

夏休み、春休み、日曜日等は、座席を指定しています。これはグループできて、他の人に迷惑をかける人がいるからです。

本人は、勉強を教え合っているつもりですが、真剣に、1

秒を惜しみ、学習にいそしんでいる方も多いいです。その人たちの立場からは、「うるさくてかなわない」ということになります。他の人への気配りをお願いしたいと思います。

市民の図書館ですが、あなただけの図書館ではありません。あるきまりの中で自由に利用していただきたいのです。他人に迷惑をかけることだけを守れば、楽しいくつ

ろげる、みんなの図書館になります。残念ながら、閲覧室では、このことを守らない人がちらほらいるのです。

うちの子に限って

その実態を父兄の人は知っているでしょうか。

「図書館に行つて勉強してくる。」この一言で親は、安心してしまいます。子の学力向上を願う親の泣

きどころだと思ひます。が、その時なんの親が「人に迷惑をかけるなよ。」といつて、送り出すでしょう。

うちの子に限つて、そんなことではないと思わず、どうぞこの一言をかけてください。

閲覧室「ごぼれ話」

①利用者アンケートから

「図書館は、デートの場所です。」かんちがいしているようです。

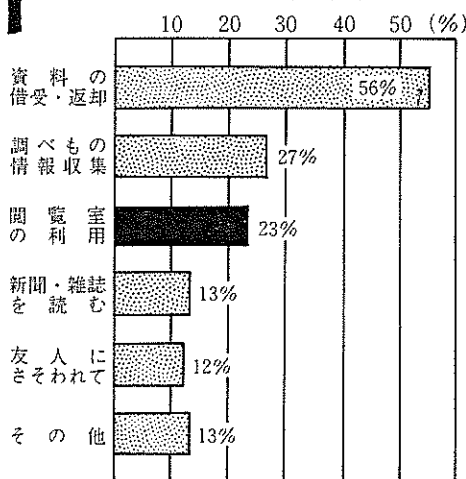
②目安箱から

「おかげさまで、念願の国立大学に入学できました。」うれしい話です。

とにかく、冷房がきかないほど、熱気に満ちた、今夏の閲覧室でした。

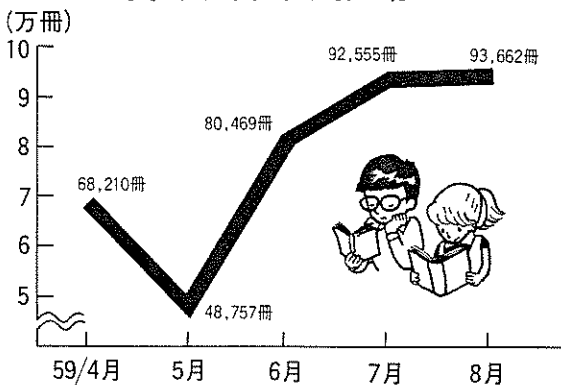
あなたが図書館に来るのは？

図書館利用の目的 (複数回答)



※58.10.29～11.9実施「宇都宮市立図書館来館者利用実態調査」より

貸出冊数推移



注：団体貸出は除く。5月の落ち込みは、特別整理期間による開館日数減のため。

はやくとりかえ

読みたい本が貸出中のとき、本の予約を受け付けていますが、予約した本を、1週間以上、取りにこない方がいます。

他の利用者の迷惑となりますので、図書館からの連絡が来たら、1週間以内に取りに来てください。

なお、本を取りに来たときは、各階のカウンターで、自分の名前と予約した書名を、ハッキリ、言うてください。

また、予約した本が必要でなくなったときは、その旨を図書館にお伝えください。

貸出券の裏の、有効期限のスタンプを確かめてください。期限のすぎ

ている方、次の月までの方は更新手続きが必要です。早めにお済ませ

ください。

受付場所は図書館1階・カウンター・移動図書館の各ステーション及び各公民館です。手続きには貸出券が必要です。貸出券は期限が過ぎていても使えますので、絶対に捨てないでください。捨てた場合は再発行になります。



8月26日第1回「子どもの本を考える」公開講座を開催しました。笑い話・おぼけ話に代表される

「民話・笑い話からおぼけ話まで」

供との間に必ずわくはずだし、わいてくるような読みかきせをしな

現在、日本子どもの本研究会事務局次長。

2・3歳前後のことは沢山覚えてきた。ことばとそれに伴う感情を豊かにしていくことが大事だということ。そのためには、うんと遊んで経験をふやす一方、実際に経験できないことを読みかきせを通して経験することが大切だと話されました。読みかきせは読む本・読む人・聞く人の3者がそろって成立する。本を通して感じたこととの交流が読む大人と聞く子供との間に必ずわくはずだし、わいてくるような読みかきせをしな

熱っぽく話されました。講師 大澤マツ 栃木県生れ。栃木師範卒後、瑞穂野小、本郷小(上三川)、東京都下で40年間教壇に立つ。

「子供を本好きにするために」

8月12日読みかきせ講座を開催しました。

知ればどの子も本が大好きになる天性をもっているのに、それを嫌いにしてしまうのはとりまく環境次第。大人は子供の欲求を満たすように手だてをする必要があります。そのための一番簡単な方法が読みかきせなのだ、語りをまじえて熱っぽく話されました。

「私の書き方」

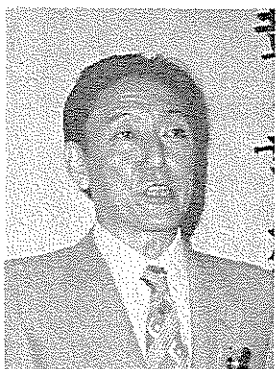
9月9日第1回「ずいひつ」講座を開催しました。

講演の要旨は次の通りです。何故書くかと人にいわれますが、私はものを書くことが好きです。お集りの皆さんも書くことが好きだから書いているのだと思います。ものを書く場合、自分はどうな人間だろうかということいろいろな角度から考えてみる必要があると思います。そこで得た答が書くものなのです。

「ずいひつ」講座

中で自分の文体となり持味となるのです。また、自分にあう作家の文章をくりかえし読み、研究してみることがあります。人を打つ文章とは見たまま、感じたまま、自然体で書かれています。ずいひつの語り口に引き込まれて、聞き入っていた。

ユーモアのある口調に加え、手応えのある切り口に、民話というひとつの素材が、また輝き出したという感想が多く寄せられた。講師 大川悦生(おおかわ えつせい) 主著に「おかあさんの木」「おぼけのすきな王さま」ほか。



「文章を書く力について」

9月16日第2回「ずいひつ」講座を開催しました。

「ずいひつ」とは、自分の性格を紙の上に文字であらわすことであり、はずかしいことなどは書いてあるうちに、どこかへ行ってしまうものである。

目次

問 高い所の本がとれません。
答 1階高書架南側に黄色の踏台を置きました。
・ 足元に十分注意して、ご使用ください。

ずいひつを書くには二つの原理がある。①文章とは対話である。ことばによって相手に自分の気持ちを伝える。1行読んだとき、読んでいる人に興味を与える対話が必要である。読者とラポールがでなければならぬ。つまり心のベルトで結ばれていなくてはならない。②文章はレイアウトであること。原稿枚数のメド、ワクを設けること。文章はプロポジションでなくてはならない。それとともにドラマでなくてはならない。演技性をもったものであること。③文章とはリズムミカルであること。長い、短いセンテンスがあること。

この三つの原理を述べながら、豊富な引用を朗読し、また自著の作品などを触れながら、わかりやすく講義した。切実な質問も多く予定の時間を超過する熱心だった。講師 芳賀綾(はが やすし) 東工大教授、NHK解説委員。

落語会

市内アマチュア落語会の出演で、第13回落語会を開催します。この落語会では、「聞く読書」として「声の図書」を作成し、目の自由な方々に鑑賞していただきます。寄席の臨場感を出すため、ぜひご来場し、いっしょにお楽しみください。

日時 11月24日(土)

午後3時～5時

場所 市立図書館3階集会室

名画鑑賞会

題名 西部戦線異様な

し(白黒・100分)

日時 10月28日(日)

第1回午前10時

第2回午後1時

第3回午後4時

場所 市立図書館3階集会室

定員 150名。整理券が必要。

子どもの本を考える

宇都宮子どもの本連絡会と共催で、今年度第2回めの「子どもの本を考える講座」を開催します。

テーマ 子どもと読書

講師 大石真(作家)

日時 11月4日(日)

午後1時30分～3時30分

場所 市立図書館3階集会室
定員 150名・10月26日から受付

読み聞かせの会

読み聞かせの会の皆さんによる、民話の読みかきかせです。

方言をまじえながら、絵本をじっくりと読んでみます。おとなの方も、ぜひおでかけください。

日時 11月25日(日)

午前10時30分から約2時間

場所 市立図書館3階集会室

ニュースコーナー

絵本の主人公たち



ねみちゃん ねずみくん
なかえよしを文、上野紀子絵
「どうさんとねずみくん」より

うつのみや子ども賞

子どもたち自身の作品評価への道を築き、子どもたちへの読書の普及をはかることを目的として、うつのみや子ども賞を今年の6月からはじめました。各文庫から17名の子どもたちが、月2回約2時間、新刊書の中から一冊推せんする本を選びます。最終的には、年一冊の推せん本を選びます。これからの期待してください。

貸出状況

区分	59年8月	59年度累計 59/4～59/8
登録者数	2,038人	82,716人
貸出人数		
館内	25,348人	96,564人
視聴覚	2,163	9,415
館外	4,491	20,415
計	32,002	126,394
貸出冊数		
館内	75,014冊	300,520冊
視聴覚	4,538	20,287
館外	18,648	83,133
計	98,200	403,940

1日あたり貸出冊数最高記録を更新!

9月16日(日)は、ぐずついた空模様にもかかわらず、8,728冊の貸出があり、1日あたりの貸出冊数の最高を記録しました。一人平均3冊を借りたとすれば、2,900人もの方がカウンターにいらんだことになります。

過去最高は、今年2月12日(日)の8,333冊。

利用案内

開館時間

午前9時30分～午後7時

ただし、児童図書室は

午前9時30分～午後5時

休館日

毎週月曜日

国民の祝日

図書整理日(毎月初日または翌日)

〇冬の準備は?

秋らしくなったこの頃、サマーセーターやコトンの洋服の本から、冬の編み物の本の貸出しが増えていきます。

図書館では、たくさん種類の編み物の本を揃えていますので、ご利用ください。

セーターを手作りしましょう。

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				①	2	③
4	⑤	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	⑬	20	21	22	⑭	24
25	⑮	27	28	29	30	

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						①
7	②	9	⑩	11	12	13
14	⑪	16	17	18	19	20
21	⑫	23	24	25	26	27
28	⑬	30	31			

ボランティア製作

あたらしい本

声の図書
▽真昼のワンマン・オ
フィス(中神さとみ)
▽愛・みつた(安喰
とみ子)▽点字と朗読
への招待▽窓辺の少年
(以上藤田東子)▽風
林火山(横山嘉子)▽
純白の夜(田中義子)

点訳図書

▽松谷みよ子全集(2)(北川君子)
▽家族(斎藤俊子)▽丸〇〇日の
包圍の中で(猪瀬鏡子)▽ぼくら
三人にせ金づくり(小林ヒサ)▽
トラベラー小きな開拓者(四十
物恵子)

寄贈



斎藤てる子「きんいろのうま」
栃木県立博物館「栃木のカミキリ
ムシ」・宇都宮地区労働組合会議
「地区労二十年のあゆみ」・酒巻
英之助「朝日年鑑一九五一一八八」
・富士重工宇都宮製作所「富士重
工業三十年史」・創価学会栃木県
青年平和委員会「戦争を知らない
世代へ」・うつのみや童話の会「ヒ
マラヤの蝶よ低く飛べ」ほか多数。